

第4章

学識経験者の意見

1 学識経験者 ※50音順 敬称略

- | | |
|-------|---------------|
| 石垣 正純 | 弁護士 |
| 大野 英彦 | 千葉大学教育学部教授 |
| 木村 得道 | 千葉県PTA連絡協議会会長 |
| 三幣 利夫 | 千葉敬愛学園理事長 |

2 学識経験者からの意見聴取（ヒアリング）

（1）実施日

令和6年7月23日（火）・24日（水）・25日（木）

（2）概要

教育に関し学識経験を有する方の知見を活用し、客観的な評価を行うことを目的として、学識経験者に対し意見聴取（ヒアリング）を実施し、教育委員の活動全般や、第3期千葉県教育振興基本計画の進捗状況等について御意見をいただきました。

各章の内容について頂いた御意見を次ページから記載いたします。

【第2章 教育委員の活動】について

(1) 総合教育会議について

- ・知事を含めての会議が実施されていることは非常に良いことである。
- ・AI を使用しての学習はこれから大切になってくると考える。AI をどのように使用していくのか施策の中に位置づけられると良い。
- ・困難を抱える子供たちへの支援についても、教育委員会と知事部局との一層の連携強化を図られたい。

(2) 教育委員の活動の概要について

- ・視察等、現場を知ることとはとても大切なことだと思う。外に出ていく機会が少ない印象を受ける。千葉県は広いので、いろいろな地域を見て、現場からの声を直接聞いていただき、実態を把握していただきたい。その際、人数を最小限にして訪問する等、訪問先の負担軽減も考えていく必要がある。
- ・県内の市町村教育長との研修会は、活動の内容の中に明記してもよい意義ある活動だと思う。
- ・委員勉強会の回数を見ても、教育委員が御努力されていることがわかり敬意を表したい。忙しい中ではあると思うが、さらに現場を多く見ていただくことを願う。
- ・教育委員の活動は、多岐にわたっており、大変だと思う。県下の教育に関わる様々な側面を今後も見ていただきたい。

(3) 具体的な施策への反映について

- ・教育委員の意見が教育行政に反映されており、よく整理されている。一層充実されたい。

ア 学力向上について

(ア) 全国学力・学習状況調査について

- ・受験者も毎年変わるため、平均値やランキング等、数値に固執するのではなく、自校の課題をしっかり捉え、授業改善に取り組んでいくという視点が大事だと思う。
- ・今後も授業改善にフォーカスした取り組みに期待したい。

(イ) 公立高等学校入学者選抜の結果について

- ・公立高等学校入学者選抜において定員に満たない高等学校が増えている。入学者選抜実施方法も含めて検討していかないといけないと考える。入学した生徒をどのようにして伸ばしていくか。そこに重点を置いていくことも大切なことだと思う。
- ・数学の正答率が0%の問題があることに対して、問題の作成について再考されたい。
- ・英語の得点分布に正規分布が見られることは良いことなので、今後も問題作成を工夫されたい。
- ・表現する力は非常に大切なので、県独自の『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムを活用して、思考力や表現力をつけられたい。また、学力検査の結果分析をまとめた「指導のポイント」もしっかりと活用されたい。

(ウ) 公立高等学校入学者選抜におけるデジタル採点システム導入について

- ・デジタル採点システムの導入により省力化できるところは、すごく良い取組だと思う。
- ・デジタル採点システムの導入はよいが、マークシートで学力、特に思考力をどこまで判断できるのか、今後さらに検討していく必要があると考える。
- ・デジタル採点システムの導入は働き方改革の上で大きなメリットだと思う。
- ・入学者選抜において人的ミスがあったので、幅広くマークシートを活用することは良いことであ

る。マークシートの柔軟な活用についても考えられたい。

イ 千葉県・千葉市教員等育成指標（養護教諭等）について

- ・一人職だとより自己研鑽が難しいところがある。研修体制について、より整備されたい。

ウ 問題行動・不登校等について

- ・問題行動や不登校が起こる背景には、いろいろな理由がある。児童生徒によってその理由は様々であるため、児童生徒や保護者が相談を受けられる体制の更なる充実に取り組みられたい。
- ・不登校から復学して、社会で活躍できるような体制を検討していくことも大切なことだと感じる。
- ・県教育委員会としてスクールロイヤー制度を取り入れていると思うので、スクールロイヤーの活動も明記されることが望ましい。
- ・令和6年度から始まる、不登校状態にある中学生を対象とした授業配信について、評価できる。

エ 学校における働き方改革について

- ・時間を管理することが大切なのではなく、児童生徒をしっかりと育てていく時間を確保することが本来の働き方改革につながると考える。
- ・働き方改革については、学校の努力にすべて任せることなく、行政がしっかりと金と人をフォローしていく必要があるものと考えたい。
- ・地域の実態も様々なので、働き方改革については、一筋縄にはいかず、時間がかかると思うが、現場の先生方の意見も聞きながら働き方改革に取り組みられたい。
- ・働き方改革を他校はどのように行っているのか把握することが大切だと思うので、好事例集の作成は非常に良い試みだと思うので一層の充実を図られたい。

オ 令和6年度千葉県県立特別支援学校幼稚部・高等部及び高等部専攻科入学者選考要項の制定について

- ・特別支援教育に対するニーズが高まってきている。今後も県教育委員会と市町村教育委員会で協力して特別支援教育に取り組みられたい。

カ 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

- ・当たり前のことだが、楽しみながら、体を動かす時間を創出することは非常に大切なことだと思う。より一層の充実を図られたい。

キ 教職員の不祥事根絶について

- ・不祥事が起こってしまうと、学校の子供たちや保護者の信用を一瞬にして失ってしまうので、不祥事の根絶に向けて今後も取り組まれたい。
- ・不祥事が起こっていないときでも基礎基本を説き、記憶喚起が必要である。不祥事防止に関わる全体計画及び年間計画の作成を通して、研修の体制の構築を図られたい。

ク 文化財の活用について

- ・指定された文化財をどのように活用していくべきなのか、活用方法を工夫されたい。

(4) 教育委員会の充実と発展のための研修・意見交換

ア 市町村教育委員会

- ・動画配信による実施も方法の一つとしてあると思うが、対面で実施した方がより意義のあるものになると考える。

(5) 教職員・児童生徒との意見交換及び教育関連施設等の視察

ア 県立・市町村立学校

- ・児童生徒数が多い地域、少ない地域、千葉県にも様々な教育環境がある。現場を視察する機会を

増やせるよう努められたい。

【第3章 教育委員会の所管施策】について

2 第3期千葉県教育振興基本計画の実施状況

(1) 千葉県教育の「あるべき姿」と各施策の実施指標

- ・一人一台端末が普及したが、多人数同時利用に耐えうる通信回線の確保や機器のメンテナンス等をしっかりとやっていかないといけない。導入して終わりではなく、回線、保守、更新等が整っているのか常に点検し、不足している場合には適時対応されることを望む。
- ・学校生活に満足している児童生徒の割合は高い値で推移している。今後も子供たちが安全で安心して学ぶことができる環境づくりに取り組まれない。
- ・県教育委員会が生涯学習の推進に向けてどれだけ力を入れて取り組もうとしているのか。どのくらい必要があるのかしっかりと把握した上で取り組まれない。
- ・コミュニティ・スクールの設置率は上昇しているが、全国と比較すればまだまだの状況である。コミュニティ・スクールをもっと拡充させたいのであれば、導入について姿勢を明確に示すべきである。

(2) 各施策・指標の達成状況

- ・主体的に授業改善に取り組んだ学校の割合について
 - ・授業改善に向けて、今後も継続し、努力されたい。
 - ・授業改善は、児童生徒の学力向上のために有効な手段になる。今後も主体的な授業改善に取り組まれない。
- ・児童生徒のICT活用を指導する能力について
 - ・学校間や職員間でも差があるのではないかと。児童生徒はICTを活用できるようになってきている。先生方もICT活用について指導できるよう、努力されたい。
- ・生徒の卒業段階における英語力について
 - ・教員による見取りと実際のCEFRの点数にどのくらいの差があるのか。見取りが本当に合っているのか、裏付けが必要であると考え。
- ・「道徳の授業で学んだことは、必要のあることだと思う」と考える児童生徒の割合について
 - ・達成状況が高くなっている。なぜ良い結果になっているかの分析をすることで、さらにその先につながるかと考える。
 - ・肯定的な回答が高い推移で維持できてはいるが、否定的な回答が出ていること、なぜ出てしまうのかということも考えなければならない。
- ・本県のいじめの認知件数に占める、いじめの解消している者の割合について
 - ・スクールカウンセラーの導入が一定の効果を上げている。教員が授業に専念できる環境が作り出されている。
- ・小学校における新体力テストについて
 - ・体育学習以外の運動機会の創出に引き続き取り組まれない。
 - ・基礎的な運動能力については、長期的なスパンで見ていく必要がある。コロナウイルス感染症の流行や気候の変化、科学技術の発展、社会の進展等々に伴う生活形態の変化も考えられる。一生の健康にも関わることなので、中長期的なスパンで見ていき、足りない部分を先取りして補っていきけるよう努められたい。

- ・ **児童生徒の登下校時における交通事故死傷者数について**
 - ・ 死亡者がおらず、成果が上がっている。交通安全についてのルールやマナーは幼少期から身に付けていくことが大切である。引き続き努力されたい。
- ・ **私立学校における教員一人当たりの生徒等の数について**
 - ・ 学校法人への経常費補助の充実について一定の効果が上がっている。
- ・ **組織的・継続的な研修を行っている学校の割合について**
 - ・ 今後も研修の充実に取り組みたい。また、対面での研修やオンライン研修など研修方法は様々ある。効果的な研修方法を工夫されたい。
 - ・ 各学校では、研修の充実がなされていると思う。引き続き、研修の充実に努められたい。
 - ・ 教員の質・教育力の向上を目指すためには、組織的で継続的な研修が必要になってくる。今後も研修の充実を図られたい。
- ・ **県教育委員会が実施する調査等の縮減について**
 - ・ 調査等を減らさない限り、時間外労働は減らないと考える。下げ止まりになってはいないか。調査内容や調査方法を工夫されたい。
- ・ **公立学校における学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の割合について**
 - ・ 様々な事情により、不登校になっている児童生徒がいる。児童生徒に寄り添い、カバーしてあげられるような体制の構築を検討されたい。
 - ・ 様々な努力はなされているが、相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の割合がまだ高い。今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の更なる拡充に取り組みたい。
 - ・ 児童生徒はもちろんだが、保護者も様々な悩みを抱えているケースも多い。更なる相談体制の拡充に取り組みたい。
- ・ **コミュニティ・スクールを導入した学校の割合について**
 - ・ コミュニティ・スクールの導入には、地域性もあると考える。導入におけるメリット、デメリット等をしっかりと把握しておく必要がある。
 - ・ コミュニティ・スクールを推進していきたいのであれば、県がもっとイニシアチブをとって、進めていく必要がある。
- ・ **千葉県生涯学習情報提供システム「ちばりすネット」の情報登録件数について**
 - ・ 登録件数を増やすことが目的ではなく、やらなければいけないもの、やらなくてもよいものを精査することも大切であるとする。
- ・ **県立生涯学習施設（青少年自然の家、さわやかちば県民プラザ）の主催事業の参加者数について**
 - ・ 千葉県は海があり、山もあり、川もあり、自然に恵まれた環境がある。県立生涯学習施設については、有効活用できるように努められたい。
- ・ **留学・研修旅行のために出国した生徒の人数（県立高校）について**
 - ・ 増加を目指すことが目的ではなく、家庭的な負担や休学等高校生活に影響が出ないような体制を検討されたい。